

誘導「おもちゃ屋」の記録から
保育

千葉女子師範學校附屬幼稚園 山川 幸枝

本文は舊年十一月、千葉縣教育研究會に於て發表された誘導保育おもちゃ屋の實施記録です。
案への導き入れ方とか、又は幼児達に科學させやうとする先生の行届いた心遣ひとか、おもちゃの觀察への引き入れ方などが誠によく現れてゐると思ひます。(編輯部)

十月二十日

相談會を開く、月組に動物園の計畫のある事を、それさなく羨んでゐたらしい幼児達は、此の計畫には大喜びで躍りあがつて了つた。

知つてゐる限りの玩具を舉げるのもよいが、幾分でも幼児自身が考へた所の製作豫定を、たてさせて見度い、と思つたので、次の條件のもとに、玩具を舉げさせてみる。

一、好きな玩具で作れさうなもの

二、作つて見度いと思ふ玩具

そして列擧されたものは

一、こま 二、兎 三、飛行機 四、かぶさ 五、奴さん 六、着せかへ人形 七、千代紙 八、提灯 九、落下傘 十、時計 十一、鶴 十二、二隻舟等更に保姆の作り

度いものとして

一、ふら／＼人形 二、戦車 三、自動車 四、旗 五、勳章 六、風車 七、手提 八、歌留多等。それによつて實際述べさうなものを舉げるに「ほんさに出來たらいなあ」こ一同拍手して喜ぶ。

それから更に次の事を約束する。

一、これからはごんな玩具でも、さうして出來てゐるかよくみませう。

二、よく氣をつけてみたら、それを作つてみませう。

三、すぐに出來なくても、頑張つてよく考へて作つてみませう。

先生が作り度いと思つてゐるものもさうやつて作つてよいのかまだわからないのだから、一緒に考へて下さい、と

云ふこ引受けた云ふ様にうなづく。

その作る材料についても木、竹、棒等の論も出たが、一番容易なものは矢張り紙なので、紙で作れるもの云ふ條件にする。「明日から作らう」「うんこ作らう」こ第一回の相談會は張切つて終る。

扱て、品物は種々舉げられたが、これを如何にして幼児の前に出して行つたらよいかに迷ふ。

幼児自身存分に活躍して、面白く遊んで、更に、協力しつつ一つの目的に進ませるには、こ考へてみたが、さうした條件に皆叶ふ様なよい方法も見當らぬまゝに、第一回の製作には、動くもの、變化するもの、遊び得るもの云つた様な條件を備へてゐる「こま」をこりあげてみる。

十月二十一日

「玩具やさんのおもちや作つてきました」こ二三の幼児が大切さうにもつてくる。

お母さんに作つていた云ふ竹製の手槽、モール製の植木鉢、人形等。

なるべく自分で作つたものを、さもう一度念を押しておく。

数名の幼児と共に花ごまを作る。普遍的な意味で櫻ごまにしてみた。クレオンを濃くつかはないこ葉書の字が消えないので、濃くぬるこ輪廓線が不明瞭になるから先にきり

ぬかせる「きれいだきれいだ」こ大喜び。段々希望者が増加して十数名こなり、机も隣組を作る。隣の机からわざ／＼相談に來たり、よく廻るこ報告に來たり、なか／＼賑やかになる。切つて塗れたものに揚子を通してやる。かたくさす事は注意せずにおいて幼児の發見をまつ。幼児達は廻してみて次に舉げるやうな種々な發見をする。

一、花びらのきり込みがまはるこわからなくなつてまろく見える。

二、塗つた色が廻るこ薄く見える。

三、まんなかを通さないこすぐ倒れて了ふ。

四、倒にしてもよく廻る。

五、こまの脚が長すぎるこよく廻らぬ。

六、芯の穴が大きくなるこよく廻らぬ等

一こ二は不思議だ云ふので、いろ／＼な論が出たが「うんこ早く廻るからさう見へるのだ」こ云ふ幼児があり、一同それに賛成して終る。

「面白かつた、明日は皆で澤山作らう」こ意氣込んでゐたが、翌日も翌々日も手不足や事故多く、心豊かに製作にきりかゝる折を失つて了つたのは残念であつた。

その間、簡單な摺紙や千代紙製作で、玩具屋の店が追々賑つてくるのを楽しむ様に、ぼつりぼつりこ思ひつきの物を作つては飾つてゐる。

十月二十六日

今日から教生の保育實習が開始され、新しい十一人の先生を迎へて、幼児は朝から落着かず騒ぎまはる。そこで自然に遊びの中から入つて行く積りの計畫を止めて、一齊的にこま作りをする。始めの騒ぎも製作に入るに静かになつて一同一生懸命だ。

櫻、梅、圓形、の三種

圓形のもはその面を二つに別けて彩色し廻してみて色の變化を發見させる、友達同志比べあつて面白く一時を遊ぶ。花組の人も仲間入りして、倒立ちの上手なこま、なご別けて遊んでゐる。

そのうちに一人がこまが飛ぶ事を發見する。指先の力をぐつと増すと、空中滑走をしてさんでもない方にさんで行く。こぶ事はこぶが、こばせ度い方になかくこばない。「プロペラの様だ」「宙返りをする」に相當長時間繼續して遊ぶ。

十月二十八日

昨日は教生の最初の實習で製作に入れなかつた。今日は朝の未だ靜かな時、繪本をみてゐる幼児の傍で戦車の彩色をしてゐる。あ、戦車だ僕にもさせてねとお辨當を置くのももごかしげに集つて来る。内氣な人達が進んでするの恥しげに、けれぎ去りがてにしてにこりこり「やり度い

？」「きたずねるこ」「うん」こはつきりした返事だ。忽ちに机が満員になる。

迷彩がなか／＼うまくゆかず早く形を作らうとあせる人達へ、順々に叮嚀に仕事をしなればよいものが出来ない事を注意しつつ、眞實の戦車を作る職工さん達の眞剣な作業振りを話してゐるこ、色を塗る手が俄然活潑になる。男の子の作業をみてゐる女の子達に「こんな玩具があるのよ」こ準備しておいた人形を見せるこ、にこりこして「一人で出来ます」こさつさこ空いた机にもつて行つて了つた。

女兒も忽ちに超満員。教生も加はつて賑やかにたのしい製作に入る。戦車は十臺が迷彩を終る。人形は十八人出来る。戸外遊びに夢中だつた數名が手を洗つて入つて来て、おや、こ云ふ様な顔をした。その人達には明日製作する事を約束、迷彩を終つた人達は、得々嬉しげに、明日は機銃屋を作るのだ、こ頑張つてゐる。

十月二十九日

朝、顔をあはせるより早く早く挨拶もそつちのけで「昨日の戦車の續きをやらせて」こ云ふ。「僕ふつこんで駈けて來たんだ」こ汗をかいてゐる。昨日の續き、今日は機銃屋を作るのだつた。出してやるこ「ここをきるの、さうやつたらいゝんだらうなあ」何でもやつて貰ひ度い氣持がすいぶん少くなつて、自分でやらう、こ云ふ氣持に溢れてゐる事は

實に嬉しい。そのうちに「あ、何だか變だよ、先生、なかなか出来ないよ」悲鳴をあげる。みるゝ點線をきりきりて形にならない。「點線は折る所、これ君のきりきりが違ふのでせう」比較して見せるゝ「間違へちやつた。やりなほしだ」今度は非常に慎重な態度できりかゝる。「しつかり強い日本の戦車を作つて下さいよ。進まうと思つたらこわれちやつたなんて戦車ぢや駄目ねえ」きりまいてゐた數名が、笑ひながら「大丈夫、丈夫なのを作るよ」自信滿滿。然しきりうにも銃座が少しむづかしい。何さかならぬか

きり苦心してゐるゝそれをじつと見てゐた一人が「先生その所も塗らない敵の飛行機にみつかつてちやふじやないか」云ふ。そのうちに「出來た、先生、僕こんなに勇ましいのが出來たの」云つて持つて来る。「立派ね、陸軍のしるしもつけましたか」云ふ間も途中迄きいて、保姆の手からきりかへすより早く「勇ましいなあおい戦車だーい」遊戯場の方へ駆けて行つて了つた。濃くクレオンを塗つてある所に貼りつける事はなか／＼困難な仕事「僕、便所へ行き度いんだけ離れちやうゝ困るなあ」云ふ人へ、僕が押へてゝ上げるゝ五六本の手がのびる。幼い協力がこんな所にもある、女の子達は人形の姉さん作りに忙しい。塗る事も、切る事も、貼る事も馴れたものできり／＼やつて了ふ。放課後敎生の人達に人形の着つけを依頼する。色彩を

美しく、なるべく立體的な動的な感じを出す様に工夫してゐる様にこの條件のもに。

十月三十日

玩具屋の店が、色きり／＼の着物の人形でバツミ明るくなつた様な氣がする。女兒は皆集つてきて、いろ／＼評議してはにこり／＼。更にお母さんを作りませう、云ふ事になる。男兒は保姆と協力してくすだまを作る。

保姆の切りぬいたのを、のばす人、重ねる人、分類する人等わけあつて、八人の子が三十分位協力する。

十月三十一日

男兒協力してくすだまを作る。糊ではつて重ね、まるくなるゝ大喜びで「赤ちやんに上げ度いなあ」云ふ人もある。くすだまの下に鶴をたゝんで下げる。下げる紐にも美しい圓形の貼紙を重ねて貼りつけてみた。風に吹かれて自然に廻り出すゝ「ほんこの玩具の様だ」喜ぶ。女兒は美しい花簾を一枚いたゞいた事からまゝ遊びに夢中、よつて製作はお休みとなる。

十一月二日

研究會に關する打合せ。それ等のための人の出入に對する應接等に煩はされて、なかなかのつくりき、幼兒共々の製作に向へないのは残念だ。今日も幼兒は一人で戦車の作りかけをもち出してせつせと繼續してゐる。

「もうこれで三臺目だ」を自慢してゐる。

勢力家達が朝の間を、靜かに製作に向つてゐるので、いつもは押しつけられ勝の靜かな人達が積木を頑張つてゐるのも面白い。製作によびかけ様としたが中止。そつとそのままにして置く。

十一月四日

戦車の繼續。すっかり馴れてゆつくりした氣分で製作に向つてゐるのがよくわかる。迷彩が大變こまくなつて來た。教生さん達少し親切すぎるので注意しておく。

十一月五日

看板を作る。八人の幼児が一生懸命に貼つて美しく出來上る。出來てから掲げる所の事で相談、お部屋の入口か、今商品の飾つてある所へさげよう云ふ説。多數決で商品の竝んでゐる上にさげてみる。また花組の人達に新しい下駄箱が出來てきて、今までのものが不要になつたので、それをもつてきて飾り窓に工夫する。人形を箱に入れて此の飾り窓においたら買上げの申込みが殺到する。

男兒は勳章を、女兒はフラ／＼人形を作る。今日は月組の動物園も一段落と見えて、自發的に玩具屋の勤務奉仕を志願。押すな押すなの盛況で材料の供給部は大あはて、但しそれだけに賑やかで活氣溢れるばかりだつた。

十一月六日

男兒は勳章の續きを、女兒は乳母車を製作。色々な用事で席を立つてのみ居た事は申譯ない限り。乳母車の彩色は稍々むづかしいと思つたが、難なくさきあげてくれるのでほつとする。第二回の勳章作りはもう堂に入つたもの、胸につけて威張つて歩いてゐる。

空箱を三つ、何にし様か考へてゐたら電車を一決、早速さりかゝつたがさう／＼少しばかり残つたので明日の事にする。

戦車も、乳母車も皆明日繼續する事にする。

十一月七日

公開研究會當日。八時頃からそろ／＼お客様が見えはじめる。

電車、戦車、乳母車、勳章、幼児達は思ひ思ひの場所に陣さつて思ひおもひの製作をはじめ。今日の製作豫定は此の夏、及川先生から御教へいたゞいた金魚鉢をかへた木鼠籠、小鳥籠の豫定だつたが、その朝になつて、急に主事の用事で保姆一名は手が空かず、二人で三組かけ持ち云ふ事に早がはり。こんな時一つの主題で計劃してゐたら、今更の後悔も後のまつり、お客様の應接もあり、常よりも何一つ幼児達の中へ打込んで行けないのは残念の極みながら、今日だけは變更する事も出來ない苦しい立場に、保姆科の生徒に大體の中心を命じ、あちこち忙しかけ

廻る。誰が来ようが悠々たる幼児に比べて、何ぞ保姆の氣持の目まぐるしさ。共に行ふ事を目標として來たのに、此の日に限りさうした事も空しく、「さうして此の籠の中にリスが入るのだらう」と廻しつゝ語りあつてゐる幼児達の中に、「何故?」「それならかうしたらさうなるでせう」と第二段の疑問を提出して考へさせ、思ひつきをやつて試してみるところまで行き度かつた計劃も引込めて了つた。

講師先生御着の時間も切迫、残る一人に萬事をお願いしてさび出し、戸外の冷たい空氣にふれると、はじめて一人靜かな心にかへり、朝からの來し方を思ひ、何故か涙がこみ上げて來た。それも倉橋先生のいつにかはらぬ御溫容に接しては唯もう嬉しいばかりの心にかへつて何事も忘れ、歸園してゐるに、作業は既に終つて、保育室はきれいに片づけられ、玩具やの店先きに小さい組の人達が木鼠籠をぐるぐる廻して評議してゐるのみ。棚の片すみに置き忘れたらしいクレオンの名前を調べてゐるに「それね先生、誰かの忘れものです」と一人の幼児が報告に來た。(以下略)

保育實習科生徒

募集について

今年度の東京女子高等師範學校保育實習科生徒募集の大略は次の由にきいて居ります。

募集人員 凡二十四名

出願期限 二月一日より同月二十八日まで

試験期日 三月中旬頃

官報廣告 一月十日頃

委細は東京女子高等師範學校教務課（東京小石川區大塚町三五）につきその詳細をお聞き下さい

（編輯部）